

「漆小学校の漆バラ踊り伝承活動の取組」

1 学校名

始良市立漆小学校

2 学年・人数

1年生から6年生（計31人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年8月 地域指導者と基本の動き練習（本校体育館）

令和5年9月 体育及び創意の時間による練習（本校グラウンド）

陣形確認の練習及び発表前リハーサル（本校グラウンド）

(2) 発表の日時・場所

令和5年9月17日（日） 校区・学校合同運動会（本校グラウンド）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

漆バラ踊り（うるしばらおどり）

(2) 由来

豊臣秀吉の朝鮮出兵時の凱旋祝いとして踊り始めたともいわれている、約400年の歴史をもつ伝統芸能。昭和期に入り、伝承活動が久しく途絶えていたが、1977（昭和52）年有志の手により復活。1981（昭和56）年には「漆バラ踊り保存会」が設けられ、地域全体で継承活動に努めている。毎年9月の校区・学校合同運動会で、地域住民に披露。

(3) 構成等

ドラ打ち2人・鉦打ち約6人・バラ打ち約20人で隊形を組み、竹バラに紙を張ったバラデコと鉦を打ち鳴らして踊る。踊りは、「三ツベ・カラ太鼓・セツベ・門掛け・ビナマキ・ビナほどき・歌・引き」の八つの形からなり、これは島津の軍が、「ビナマキ（渦巻き）」戦法で攻め落とした様子を、「バラ踊り」の形で後世に伝えたものであると云われている。現在は踊り手も少なくなり、踊りも昔より簡素化されている。

5 保存会や地域との連携の具体

近年の児童数減少に伴い、特認校制度を活用して校区外から通う児童数が増え、従来の練習・継承方法に課題が生じ、存続が危ぶまれる状況が生じた。

そこで、令和元年度の四者協議（学校・PTA・コミュニティ協議会・保存会）のもと、「それぞれができることを少しずつ協力し合い、伝承していくこと」となった。その後、令和2年度の四者協議の結果、「目的の共有化」が図られた。さらに、令和3年度は、「規約や組織を明文化」、令和4年度は「外部サポート枠の拡大」を行った。

具体的には、協議会に事務局を置き、同会長が漆バラ踊り保存会の会長を兼任。協議会と保存会を中心に、日程調整や夜間練習の送迎、会計等を行っている。また、地元の指導者との連携を図っている。学校は、体育及び創意の時間で練習を行い、協議会とPTAの連絡調整や広報を行っている。PTAは、道具等の修繕や練習サポート、映像による保存を行っている。四者が連携を強化し、活動を円滑に継続している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

令和2～4年度はコロナ禍での実施に加え、特に令和3年度は蔓延防止等重点措置、令和4年度は感染者数が激増の期間と練習期間が重複し、8月及び9月上旬の全員が集まったの練習が中止や見送りになった。

そこで、PTAを中心に基本の踊りを映像で保存し、You Tubeサイトを活用して、個人練習を各家庭で行えるように工夫した。これにより、9月に実施した学校での練習の際は、初めて踊る1年生も基本の踊りを踊ることができた。以後、特認バスでの移動時間にDVD視聴をしている。

また、PTAを中心に、最も困難なビナマキの動きのポイントとなる先頭と最後尾の担当者みみの少人数で動きの確認を行った。加えて、卒業生が練習や発表当日に踊りの支援に自主的に協力してくれた。これにより、少ない練習時間にもかかわらず、ビナマキが可能となった。

さらに、令和3年度に行った規約や組織の明文化に加え、外部サポート「Urushi Lover's system(ULS)」を立ち上げ、本校を卒業した児童や保護者に任意加入していただき、バラ踊りのサポートスタッフとなっていた。

7 取組の様子



【You Tubeによる練習動画配信】



【夜間練習の様子】



【地域住民や卒業生のサポート】



【校区・学校合同運動会での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【6年生児童】

動画を見て練習したり、友達と練習したりして、本番で披露できてよかった。練習は大変だけど、踊り終わった後の達成感はすごい。

【保護者】

夜間練習中にヤバタなどの修繕をしながら、普段は語るチャンスのない地域や保護者の方との語らいができ、よかった。

【指導者】

少ない練習時間の中でなかなか不安もあったが、本番はよく踊っていた。地域の人も喜んでくれたんじゃないかな。

【地域の方】

子どもたちの踊りを見ると元気がもらえる。練習は大変だと思うが、ありがたい。